

式辞

今年の春は、記録的な暖かさで、武庫川べりの桜も満開を過ぎつつあります。春爛漫の今日のよき日に、本校の学校評議員で、伊丹市社会福祉協議会会長の照屋盛徳様、池尻小学校区街づくり協議会会長の新内竜一郎様をはじめ、ご来賓、保護者の皆様のご臨席のもと、平成二十五年度入学式を挙行できますことを、衷心より厚くお礼申し上げます。

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。そして保護者の皆様、本日は誠におめでとうございます。心からお喜びを申し上げます。

さて、阪神昆陽高等学校は、生徒の興味・関心や、多様な学習ニーズに応じて、主体的に学ぶことができる、多部制単位制高校です。また、阪神昆陽特別支援学校は、生徒の社会的・職業的自立を支援するための、職業教育に重点を置く、高等部の特別支援学校です。両校は、昨年四月九日に開校し、一体となつて交流及び共同学習に取り組んでいます。具体的には、音楽や美術、情報、体育などの授業を、両校生徒が一緒に学んだり、体育祭や文化祭などの学校行事を、合同で実施しています。これは、きわめて先進的な取り組み

であると、兵庫県のみならず、全国的にも注目を集めています。このように、阪神昆陽両校は大変特色のある学校であり、皆さんは誇りと自信を持って、入学してほしいと思います。

さて、入学に際して、三つのことを皆さんに要望したいと思います。

一つ目は、校訓「日常実践」についてです。「日常実践」という校訓には、「挨拶する、美化や整頓に努める、約束や時間を守るなど、生き方の基本ともいえるべきマナーやルールを、日常生活の中で常に実践していくことで、人間的な成長を目指す」という意味を込めています。

現代社会は、様々な課題に満ちています。この厳しい社会を生き抜いていくためには、まず自分自身が努力して、人間としての力を高めなければなりません。ではどうすればよいか。それはひたすら実践することです。高校時代という貴重な時期に、自ら目標を定め、「日常実践」に取り組むことで、人間的な成長を実現してほしいと思います。

二つ目は、「絆」ということです。一昨年三月十一日に発生した東日本大震災は、ほぼ二万人に及ぶ死者、行方不明者が出るという大災害でした。この大震災により、私たちは、「絆」、つまり人と人とのつながりが、如何に大切かを、気づかされました。

先ほどお話ししたように、阪神昆陽の大きな特色は、両校の生徒が、授業や学校行事、部活動などを一緒に取り組むことで、共に助け合って生きていくことを、実践的に学ぶと

いうものです。これは、「絆」ということを、学校生活の中で育んでいくものといえましよう。どうか皆さん、生徒同士が思いやりを持って接していく中で、お互いの「絆」を深めていってください。

三つ目は、「阪神昆陽高等学校と阪神昆陽特別支援学校はひとつ」ということです。両校一体を象徴するものとして、校章、校歌、校訓や標準服などを同一にしています。校長も別々でなく、一人の者が兼ねることになり、特別支援学校に副校長が置かれています。

両校の職員は、皆さんを分け隔てなく、接してくれます。どうか皆さんも、「両校はひとつ」という意識を持ち、学校生活を送ってほしいと思います。

最後になりましたが、ご来賓・保護者の皆様から本校にいただきありがとうございます。厚情とご支援に對しまして、厚くお礼申し上げますとともに、今後とも変わらぬご協力、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。式辞といたします。

平成二十五年四月八日

兵庫県立阪神昆陽高等学校校長兼

兵庫県立阪神昆陽特別支援学校校長

尾崎文雄